

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月8日

【評価実施概要】

事業所番号	0972400196		
法人名	有限会社ティアンドエス		
事業所名	グループホーム青い空		
所在地	栃木県佐野市山形町296 (電話) 0283-65-0017		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年8月7日	評価確定日	平成20年9月8日

【情報提供票より】(平成20年7月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年10月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	10人	常勤8人, 非常勤2人, 常勤換算8.9人	

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	1階建ての1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000円	その他の経費(月額)	・水道光熱費—10,000円 ・個人消耗品—実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300円	昼食	300円
	夕食	300円	おやつ	100円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(平成20年7月7日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1		要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	3名		
要介護5	2名	要支援2	名		
年齢	平均 83.8歳	最低	69歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	相田婦人科内科医院、佐野市民病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

佐野市郊外の旧道から少し入った、竹林に囲まれた小高い場所にあり、居ながらにして季節ごとの自然を感じられるグループホームである。管理者及び職員全員が「常に入居者一人ひとりが普通に暮らすこと」を大切にしており、入居者に寄り添いながらケアを行っている。管理者も積極的にケアに参加しながら日々の気づきを職員全体で共有し、日々、質の向上を図っている。また、入居者の身体的な機能の低下にも十分に対応しながら、入居者と職員と一緒に宿泊旅行をするなど、積極的に外出できるよう計画的に取り組んでいる。1ユニットの少人数の良さを十分に活かした、丁寧な関わりの中で暖かい雰囲気のある家庭的なホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の課題であった運営推進会議の定期的な開催について2ヶ月に1回開催されており、改善が図られている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、全職員に配布して職員と意見交換をしながら管理者がまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	入居者、入居者家族代表、市議会議員、地域包括支援センター職員とホーム職員で構成され、2ヶ月に1回会議を開催し、ホームの活動状況やサービスについて話し合っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	入居者一人ひとりに対して担当職員が割り当てられており、その担当者が家族に月1回お便りを送付して入居者の日々の暮らしぶりや状況を分かりやすく伝えている。家族が気軽に話ができるような和やかな雰囲気づくりに管理者及び職員が十分配慮しながら、家族からの意見や要望への対応について定期的な話し合いが行われている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、自治会行事の清掃活動や新年会等に参加している。また、ホームの納涼祭等には、自治会回覧板を活用して、地域の人々の参加を呼びかけている。管理者は「困ったときはお互い様」というさり気ない関わりを大切にしながら、地域との連携を図っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域に密着し、地域に生まれ、地域に貢献できる事業になること」等を理念として掲げ、入居者一人ひとりが普通に暮らすことを大切に考えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月25日の18時から20時に行う職員全体会議などで日々の気づきを話し合いながら、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、清掃活動・新年会・回覧板の配布など、積極的に地元の人々との交流を図っている。また、ホームの行事である納涼祭などに参加してもらえるよう努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価の課題であった運営推進会議の定期的な開催について2ヶ月に1回開催されており、改善が図られている。今回の自己評価は、自己評価票を職員全員に配布して、職員と意見交換をしながら管理者がまとめた。		

グループホーム青い空

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、入居者家族代表、市議会議員、地域包括支援センター職員とホーム職員で構成され、2ヶ月に1回会議を開催し、ホームの活動状況やサービスについて話し合っている。	○	地域の理解や支援を更に得られるための機会として、自治会の方や地域の中で今後関係を持っていきたいと考える機関・人に参加を呼びかけてみるなど、運営推進会議の場を更に活用していくことにも期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは介護保険更新時等以外に行き来する機会はつくられていない。	○	市職員に対してもホームの現状を把握・理解してもらえるような働きかけをするとともに、運営推進会議への参加をお願いしてみるなど、更に連携を深めていくことにも期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者一人ひとりの家族に月1回、お便りを送付して入居者の健康状態や日々の暮らしぶりを細かく報告している。職員の紹介も併せて行っている。金銭管理については、月1回、利用料納入時に報告している。また、入居者に対してより細かな対応ができるよう、職員の担当制を取り入れている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回の利用料納入時など、家族がホームを訪れた際に管理者・職員に気軽に意見や希望を話せるような雰囲気づくりに努めている。把握した意見や要望については、職員全員に周知を図り、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代があるときには事前に入居者に周知し、また新しい職員をきちんと紹介して、入居者に影響・ダメージがないように配慮している。		

グループホーム青い空

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の育成に力を入れており、法人内外を問わず、年1回研修を受講できるようにしている。また、月1回の全体会議の場において勉強会を実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとの相互訪問の機会を持ち、交流の中で共にサービスの質の向上に役立てていけるよう取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学や面談をしながら、職員や他の入居者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう、入居者や家族と十分話し合いながら支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者のできることを把握しており、習字やリズム体操、生け花、ゲーム等を取り入れながら入居者と職員が共に過ごし、入居者から学ぶ関係や支えあう関係を築いている。		

グループホーム青い空

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活における関わりの中で声かけや話をしながら、入居者一人ひとりが求めていることを把握している。希望等の意向の表出が困難な場合には家族の協力を得て、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月の全体会議で、職員の気づきも踏まえて入居者に対するケアのあり方や課題を検討しており、家族と話し合いながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状況の変化が見られた時点で、その都度担当職員や家族を交えて話し合いを持ち、随時新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族等の面会時間の設定もなく、可能な限り外出の支援をしたり、入居者や家族の要望に対して柔軟に支援している。		

グループホーム青い空


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望するかかりつけ医での受診を支援している。また、協力医との連携も強く、24時間対応可能な体制をつくりながら、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	協力医は、受診も含め24時間の対応が可能であり、終末期の看取りも実践している。また、重度化に対しても家族やかかりつけ医との話し合いを十分に行い、職員会議で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりのプライバシーを尊重して日々の声かけや対応について職員間で共有を図っている。また、記録等の個人情報の取り扱いについては漏洩防止の理解に努め、個人記録等は事務所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、入居者一人ひとりの体調や気分を尊重している。室内での生活においても入居者が選ぶ機会を大切にしながら、入居者のペースに合わせて希望に沿って支援している。		

グループホーム青い空

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みに配慮しながら、職員が献立を作成し、調理をしている。職員も入居者の介助をしながら一緒に同じものを食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回以上を目安として、午前・午後に分けて入居者一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴できるよう対応・支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	担当職員を決めて、月1～2回程の外出や外食の機会を設けている。また、習字や生け花等のレクリエーションも取り入れ、職員と一緒に楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月1～2回の外出や外食のほか、年1回入居者と職員で泊まりの旅行をしている。入居者の身体状況に配慮しながら積極的に外出できるような機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者及び全ての職員が鍵をかけることの弊害を理解しているが、日中玄関に鍵をかけることもある。	○	今後も、外出傾向の把握や外出の察知など入居者の行動などを把握し見守りながら、鍵をかけないケアをすすめていくことに期待したい。

グループホーム青い空

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、消防署との避難訓練を実施している。地元の人々の協力が得られる体制にもなっている。また、職員は緊急時の手当てができるように講習を受講している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は1日6回の摂取を基本として十分に摂れるよう配慮がされている。また、栄養バランスを考えた献立とし、液状総合栄養食を週1回飲む、などの支援もしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者に確認をしながら不快な音や光が入らないよう配慮している。また玄関や食堂等に季節の花を飾り、家庭的な雰囲気づくりに配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には思い出の写真やテレビ等が自由に持ち込まれている。入居者・家族と相談しながら、それぞれの好みに合わせた居室づくりを支援している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。